

2019年3月11日

報道関係各位

一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会

「創り続ける“これから”の街」大丸有地区の今後のまちづくりや  
『SDGs × TECHNOLOGY』『URBAN PLANNING×MOBILITY』  
『ART×AREA VITALIZATION』をテーマにクロストークセッションを実施  
一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会  
設立30周年記念シンポジウム  
**FACE 対面すれば、生まれる未来。**

**2019年3月26日(火) 13:00~17:45**

大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり 3 団体\*の1つである一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会(以下 大丸有協議会)は、「大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会設立30周年記念シンポジウム～FACE 対面すれば、生まれる未来～」を3月26日(火)に開催します。

本シンポジウムでは、**大丸有地区のこれまでのまちづくりの経緯や取り組みを振り返るとともに、これからのまちづくりの課題や展望について対談やパネルディスカッションを通して議論します。また、分科会では個別のテーマ『SDGs×TECHNOLOGY』『URBAN PLANNING×MOBILITY』『ART×AREA VITALIZATION』に特化したクロストークセッションを実施。建築や都市計画の枠を超えて、先進のテクノロジーやアート、SDGsなど幅広い分野からゲストを招き、まちづくりの新しいアイデアや価値を見つける機会を創出します。**

今回は、ゲストスピーカーとして、建築で培ったロジカルな思考を基に、アート・コマースの領域で立体・インタラクティブの作品を多数作り続けている齋藤 精一 氏(株式会社ライゾマティクス代表取締役)や、アーティストと福祉施設や企業を繋ぎ、多様性と調和のとれた社会の実現に向けて活動されている栗栖 良依 氏(NPO 法人スローレーベル ディレクター)、都市計画・開発の専門家である岸井 隆幸 氏(日本大学特任教授、大丸有エリアマネジメント協会 副理事長)、経営戦略、グローバル経営を専門とする入山 章栄 氏(早稲田大学大学院 早稲田大学ビジネススクール 准教授)など、世界中多方面で活躍中の方々にご登壇いただきます。

大丸有協議会は、都市空間の適切かつ効率的な開発・活用などを通じたまちづくりを目的に1988年7月に前身となる大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会として設立。行政と共に策定したまちづくりガイドラインを基に、サステナブルで安全・安心なまちづくりを展開してまいりました。又、リガールやエコツツエリア(\*)と共に、打ち水や夏祭りなどのイベントを実施するなど賑わいあふれるエリアマネジメント活動に取り組んでまいりました。こうした取り組みをさらに進め、今後も魅力ある「大丸有地区」を目指し活動してまいります。

＜本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先＞

大手町・丸の内・有楽町地区街づくりPR事務局 共同PR(株) PRアカウント本部9部 担当：前山・高橋  
TEL：03-3571-5238 FAX：03-3571-5380 E-mail：tokyo-omy-pr@kyodo-pr.co.jp

本資料は本日付で国土交通記者会・国土交通省建設専門紙記者会・東京都庁記者クラブへお届けしています。



(\*)「一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会(大丸有協議会)、NPO 法人 大丸有エリアマネジメント協会(リガール) 一般社団法人 大丸有環境共生型まちづくり推進協会(Tツツエリア)」の3団体は連携して大丸有地区のまちづくりを推進しています。

## イベント概要

- 【名称】 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会設立30周年記念シンポジウム  
～FACE 対面すれば、生まれる未来。～
- 【内容】 大丸有まちづくり協議会の設立30周年を記念し、当地区のこれまでのまちづくりの経緯や取組について振り返るとともに、「これからのまち」をテーマに未来に向けた包括的な議論を行います。
- 【開催日時】 3月26日(火) 13:00～17:45 (受付開始/12:00)
- 【開催場所】 東京商工会議所ホール(丸の内二重橋ビル内) (東京都千代田区丸の内3-2-2)
- 【主催】 一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会
- 【特別協力】 一般財団法人 カルチャー・ヴィジョン・ジャパン
- 【協力】 大丸有地区まちづくり懇談会、NPO法人 大丸有エリアマネジメント協会、一般社団法人 大丸有環境共生型まちづくり推進協会(エコツェリア協会)
- 【後援】 国土交通省、東京都(予定)、千代田区、公益社団法人 日本都市計画学会、認定特定非営利活動法人日本都市計画家協会、全国エリアマネジメントネットワーク
- 【申込】 <https://face-omy.jp/>

## タイムスケジュール 東商グランドホール

13時00分～13時45分

### 開会式 特別講演「都市再生～成果と未来～」

登壇者 和泉 洋人 氏 内閣総理大臣補佐官

13時45分～14時45分

### 【第1部】大丸有地区のまちづくり～「丸の内の新生」から東京駅前の整備へ～

登壇者 伊藤 滋 氏 東京大学名誉教授 / (一社) 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会  
アドバイザー / エコツェリア協会 理事長

篠原 修 氏 東京大学名誉教授

中嶋 利隆 (一社) 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会 都市政策部会長

14時45分～15時45分

### 【第2部】2030年代の大丸有地区におけるエリアマネジメントにむけて～SDGs達成にむけたダイナミック・パートナーシップ～

登壇者 小林 重敬 氏 横浜国立大学名誉教授 / 大丸有エリアマネジメント協会 理事長  
(一財) 森記念財団 理事長 / 全国エリアマネジメントネットワーク 会長

佐藤 真久 氏 東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授

藤井 宏章 氏 大丸有エリアマネジメント協会 事務局長

16時00分～17時30分

### 【第3部】大丸有地区のこれからのまちづくり～対面すれば、生まれる未来。～

登壇者 岸井 隆幸 氏 日本大学理工学部 特任教授 / 大丸有エリアマネジメント協会 副理事長  
(一財) 計量計画研究所 代表理事

吉見 俊哉 氏 東京大学大学院情報学環・学際情報学府 教授

入山 章栄 氏 早稲田大学大学院経営管理研究科 早稲田大学ビジネススクール 准教授

齋藤 精一 氏 (株) ライゾマティクス 代表取締役

谷澤 淳一 (一社) 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会 理事長

17時30分～17時45分

### 閉会式

## タイムスケジュール Room A1/A2

13時30分～15時00分

### SDGs×TECHNOLOGY「都市と社会をより良くするテクノロジー」

登壇者 齋藤 精一 氏 (株)ライゾマティクス 代表取締役  
栗栖 良依 氏 SLOW LABEL ディレクター  
風間 博之 氏 (株)NTT データ技術開発本部長  
田口 真司 氏 エコツツエリア協会 事務局次長/SDGs ビジネス・プロデューサー

15時30分～17時00分

### ART×AREA VITALIZATION「未来の都市のつながりとクリエイティビティ」カルチャー・ヴィジョン・ジャパン共催

登壇者 後藤 繁雄 氏 編集者/クリエイティブディレクター/京都造形芸術大学 教授  
杉本 博司 氏 現代美術作家  
川村 元気 氏 映画プロデューサー/小説家

※本セッションについては当日のご取材をご遠慮下さいますようよろしくお願いいたします。

## タイムスケジュール Room B1/B2

14時30分～16時00分

### URBAN PLANNING×MOBILITY「都市の未来のカタチを変えるモビリティ」

登壇者 村山 顕人 氏 東京大学大学院工学系研究科 准教授  
Christian Dimmer 氏 早稲田大学国際教養学部 講師  
佐々木 悠祐 氏 SBドライブ(株) 社長室室長

※本セッションは英語で行われます。(同時通訳付き)

**【参考】一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町 地区まちづくり協議会 設立 30 周年について**

大丸有まちづくり協議会は、1988年7月に大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会として設立。都市空間の適切かつ効率的な開発・活用などを通じた街づくりを目的に、策定したまちづくりガイドラインを基に、これまで都市空間のインフラ整備や維持管理、サステナブルで安心安全で災害に強いまちづくりを実施する他、様々なイベントを実施し、公民協調による街づくりを実施してまいりました。



1992年の大丸有地区



2017年の大丸有地区



丸の内仲通りの比較（整備前・整備後）

**★大丸有地区の数字（2018年4月現在）**

建築棟数	約 100 棟
事業所数	約 4,300 事業所
就業人口	約 28 万人

## ◆当地区の歴史と30年の歩み

江戸時代、江戸城を中心とした諸大名・旗本のための武家地だった当地区は、明治維新後に「東京市区改正条例」により経済地区として整備され 1890 年には陸軍省用地となっていた土地が民間に払い下げられ日本初のオフィス街の整備がスタート。当時のビル街はその西欧風のたたずまいから「一丁倫敦（ロンドン）」と呼ばれました。1914 年には東京駅が完成し、それ以降大型オフィスビルによる街並みは「一丁紐育（ニューヨーク）」と呼ばれました。

### ～協議会の発足～

1970～80 年代、企業のグローバル化が進展し国内外の企業の東京進出が活発化したことで、オフィス不足や老朽化、就業環境の改善などが課題となり、地権者間で一体的な再開発の機運が高まりました。東京駅周辺再開発誘導地区指定（1986 年）、千代田区まちづくり方針（1987 年）の政策を踏まえ、1988 年 7 月 20 日に大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会として大丸有協議会は発足しました。

### ～にぎわいの創出へ～

その後、地権者間の検討を経て 1994 年に再開発の指針となる 7 つの街づくりの理念「大手町・丸の内・有楽町地区街づくり基本協定」を締結し、1996 年には、行政等と共に大丸有地区の将来像を議論・検討する大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり懇談会が発足。2002 年には街づくりのハードとともに街の交流機能の強化、都市観光としての魅力づくりなどのソフト面を含めたまちづくり（エリアマネジメント）の重要性が高まり、NPO 法人大丸有エリアマネジメント協会（リガーレ）が設立されました。これまで大丸有協議会と協調してさまざまなイベントやツアーガイド、コミュニティバスの運行支援など交流機会の創出活動を実施してまいりました。

2013 年には、ユニークベニューを活用したトライアルイベントを三菱一号館美術館にて開催、2014 年から道路上でオープンカフェ等を催した「公的空間活用モデル事業」を実施。外部団体の積極的な活用を呼び掛けるための「道路空間活用のご案内」の作成や、国際会議の誘致を目的に地区の MICE 関係団体が連携する DMO 東京丸の内からの情報発信など、都心型 MICE 等に対応した都市環境整備を進めています。

